

1971年8月7日 第三種郵便物認可（毎月6回 1の日・6の日発行）  
2000年2月25日発行 SSKA通巻・増巻3488号

SSKA

ああるぴい

神奈川支部会報第14号



私たち自身で  
治療法の確立と  
生活の質の向上を目指す

JRPS神奈川支部

神奈川県民サポーター支援会員（順不同）

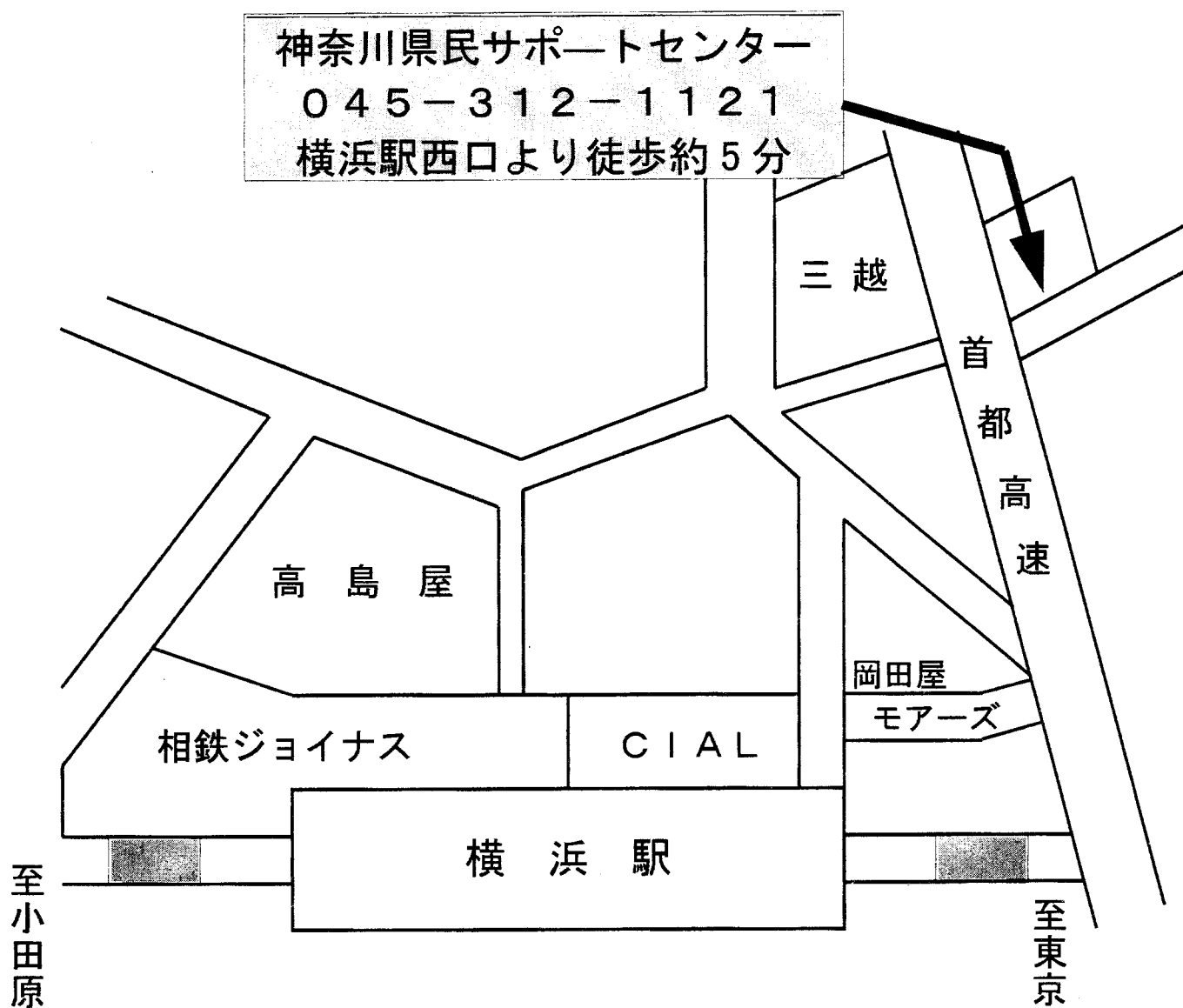
- ・（株）東栄エンジニアリング
- ・（有）結伸工業
- ・ 英弘精機（株）
- ・ フォトプレジジョン（株）
- ・（株）ナカダ技研
- ・ 高木 緑様
- ・ 木村邦雄様
- ・ 細川和明様
- ・ 豊嶋識明様
- ・ 宮戸征美様

☆ご支援に心より感謝いたします☆

神奈川県民サポートセンター

045-312-1121

横浜駅西口より徒歩約5分



# 目次

—	J R P S 神奈川の活動	—	2
	●活動予定		2
	【第二回視覚障害者総合福祉機器展】		2
—	情報コーナー	—	4
	●連載 よもやま情報 (10)		4
	●ドラえもののポケット		5
	●点字表示電卓のモニター募集		5
	●テープ版会報の発行について		5
	●インターネットプロバイダ		6
—	投稿	—	7
	●理療科(盲学校)奮戦記 No. 8		7
	●コンサートに参加して		8
	●コンサートに参加して		9
	●最高の一日		10
	●チャリティーコンサートに参画して		11
	●湯河原にて(合宿交流会)		12

## — J R P S 神奈川の活動 —

### ●活動予定

- 3月 4日 (土) ミニ集会  
県民活動サポートセンター  
午後1時～4時
- 3月11日 (土) 展示会準備  
ウイリング横浜  
午後6時～8時
- 3月12日 (日) 第二回視覚障害者総合福祉機器展  
ウイリング横浜  
午前10時～午後4時 (詳細は別掲)
- 4月 1日 (土) ミニ集会  
県民活動サポートセンター  
午後1時～4時
- 5月 6日 (土) ミニ集会  
県民活動サポートセンター  
午後1時～4時
- 5月27日 (土) 会報15号発行  
県民活動サポートセンター  
午前10時～午後3時
- 6月 3日 (土) J R P S 総会  
(詳細は本部「ああるぴい」参照)

※3月12日の展示会、5月27日の会報発行のお手伝い出来る方ご連絡下さい。

### ●第二回視覚障害者総合福祉機器展

日常生活に仕事に、不自由を感じている貴方にぜひ、見て、触って自分の不自由さをカバーしてくれる機器、補装具、便利グッズを探して、明日からの生活を少しでも快適なものにして下さい。科学は不便さを便利にする為のものです。様々な企業が視覚障害者の為に開発した製品、試作品を展示します。製品、試作品について、「こうすればもっといい」等の意見を積極的に展示業者に申し出て

下さい。そのことが、もっと使いやすい製品開発につながります。  
貴方の町の福祉関係者、眼科のお医者さんにもPRして下さい。  
視覚障害者への理解を深めてもらう絶好の機会です。

- ・日時：平成12年3月12日（日）午前10時～午後4時
- ・場所：ウイリング横浜・5階、12階研修室  
横浜市港南区上大岡西1-6-1
- ・交通：京浜急行・上大岡駅、市営地下鉄・上大岡駅下車1分  
※京浜急行は横須賀方向の上りエスカレーターを  
市営地下鉄は戸塚方向の出口を利用して下さい。  
※それぞれの改札口に誘導・案内の人がいますので、安心して御来場下さい。
- ・主な出展品目：パソコン（ハード・ソフト）、拡大読書機、  
誘導システム、点字機器（読取り、プリンター、点字板）  
色読取機、図書（拡大本、録音図書、CD図書）、協力懐  
中電灯、保険、補装具、日常生活用品、便利グッズ（お針  
箱から電子機器まで）、遮光眼鏡、ルーペ、視覚障害者  
施設、団体等50社
- ・入場料：無料
- ・後援：神奈川県、横浜市、神奈川県眼科医会、神奈川県社会福祉  
協議会、横浜市社会福祉協議会、川崎市社会福祉協議会
- ・協力：ライオンズクラブ国際協会330-B地区  
神奈川県視覚障害援助赤十字奉仕団
- ・主催：JRPS（日本網膜色素変性症協会）
- ・問合せ先：JRPS神奈川支部事務局

電話：04	*****	(昼)	
	04	*****	(夜)
FAX：04	*****		
E-mail	JDP0	*****	

## — 情報コーナー —

### ●連載 よもやま情報（10）

◎ テレビ電話を使った視覚障害者へのサービス開始  
電話のテレビカメラがとらえた映像の文字を読んだり、色の区別、  
服装のコーディネートまで用途はいろいろ。話し相手もOK。利用  
時間は土日祝日を除く午前8時30分から午後7時30分。利用料  
金は入会金5000円、月々基本料金100分まで3000円。

10分超過ごとに300円。

- ・お問い合わせ先、株式会社エネット FDフェア事業部  
0268-37-1515（点字毎日より）

### ◎共用品ってご存じですか

高齢者や障害者も使いやすいように作られたもののリストができ  
ています。03-5280-0020、共用品推進機構までお問い  
合わせください。

### ●ドラエモンのポケット

♪♪こんな物いいな・できたらいいな♪♪

【どこでも一人旅】

目が不自由でも、一人で旅行が出来る。そんな夢をかなえてくれそ  
うな開発が進んでいる。JR総研（鉄道総合技術研究所）が2月  
16日、誘導装置の試作品を発表した。この装置は車両や駅施設の  
情報を詰めた集積回路（IC）を駅の点字ブロックに埋設し、その  
点字ブロックの上を送受信機を組み込んだ白杖が通ると、持っている  
本体が音声で現在地や周辺の情報教えてくれる。又、出発前に  
目的地を音声で入力しておけば、装置に記憶された駅構内等の情報  
と照合しながら「そのまま4m直進して下さい」「あと2mで上り  
階段です」「到着の電車は東京行きです」等と音声で知らせながら  
最適経路で目的地まで誘導してくれる優れもの。本体も手のひらサ  
イズで使いやすいそう。実用化には、価格、使い勝手等課題があるが  
セット5万円以下での見通し。早く出来ればいいな！

但し、白杖がしっかり使える事が条件か！

## ※蛇足

誘導システムがいろいろ出来るのはいいけど、ボクの一人歩きにはいくつかの音声システムを首にぶらさげて歩けばいいの??

## ●点字表示電卓のモニター募集

三菱マテリアルで開発した「点字表示電卓」のモニターを募集している。従来の音声電卓では、視覚・聴覚の重複障害者は使用できない桁数が多くなった時、確認の大変さを解消した電卓です。大きさは12×9×2.4センチで、重さ250グラム。四則演算に加え関数機能もある。モニターは視覚障害者で1～2週間使用后アンケートに答えてくれる人を4月中旬まで募集。

申込は、ハガキ、FAX、電子メールいずれでも可能。

申込先 FAX : 048-645-2336

E-mail tenji@mmc.co.jp

〒330-8508大宮市北袋町1-297

三菱マテリアル 知能機器・システム開発センター  
「点字電卓モニター」係

## ●テープ版会報の発行について

前号でテープ版会報の購読の会員の方にはお知らせしました通りこの号から、通いの布袋での配送になりました。届きましたら、1ヶ月以内に、袋を裏返しにして中にテープを入れて返送して下さい。別のテープを返送する場合は90分テープを入れて下さい。お近くのポストに投函すれば届きます。

尚、朗読、配送は音声訳グループ「戸塚朗読会」の皆さんのご協力で実現できました。ありがとうございます。

## ●インターネットプロバイダー

巷では、インターネットブームが加速していますね。みなさんの家庭にもだいぶ浸透してきているのではないかと思います。ビジネスのほうでも、いまやインターネットは花盛り。話題の電子商取引も加熱してきています。

さて、このインターネット。我々との間に仲介業者、いわゆるプロバイダを介さないと出来ないのはもう常識ですよ。みなさんはどのプロバイダに入っていますか？会員数No.1は富士通が運営する@niftyだそうです。私の周りの色変の方もニフティの会員は多いです。使用料金は月額もしくは年額で、固定料金、従量料金、その両方のミックスとさまざまですが、先日、このプロバイダでおもしろいところを見つけました。なんと、障害者特典のあるプロバイダです。運営しているところは日本ユニシス情報システムで、「Dream-net」というコースです。月50時間使用出来て、月額1000円だそうです。これから、インターネットを始めようという人、プロバイダを乗り換えたいという人、是非検討してみたいかがでしょうか？もちろん、障害者手帳を持っている人でないと対象になりません。詳しくは、ホームページを見て、(www.netsurf.ad.jp)もしくは、電話03-5546-3414へ問い合わせしてみてください。



# — 投 稿 —

## ●理療科(盲学校)奮戦記 No. 8

佐々木裕二 (小田原市)

～鍼の臨床が始まった！～

2月の第4土日は按摩・鍼・灸の国家試験です。そのため3年生は1月の末をもって臨床を終わり、その後は2年生が引き継ぐことになるのです。ということで、2月から鍼の臨床が始まりました。2年間勉強してきた技術とツボ、いよいよ治療に実践です。と、しかしその前に、臨床に出しても良いかどうかの試験が待ち受けていました！先生を相手に指示されるツボを取ります。あるいは、鍼を刺し響きを出します。いつもは楽しい実技なのですがこのときばかりはみんな緊張！とくに問題なのは取穴、如何に正確にツボを取れるか、覚えているか。なにしろ360ヶ所もあるのです。もう一つ関門は痛みを与えないこと、痛くては患者はもう来なくなってしまう。

さて試験の結果は・・・？ 天柱というツボが有ります、頸の後ろの髪の中なのですがなんとその先生は髪が長い、内心「床屋に行ってからにしてほしいな～」と思いながらもまあ患者さんなら文句は言えないだろうと思って鍼を打ちました。結果はその1ツボがとても痛かったそうで・・・。それが原因かどうかは分かりませんがもう少し練習をしてということになってしまいました。

2週間ばかり特訓をしていよいよいよいよ患者さんを頂きました。患者が決まるとまずカルテを詳細に確認します。何を訴えて来られているのか、病歴は、家族歴は、そして今までの治療歴を確認します。と、ここで問題が発生です。カルテの字が読めない、カルテが繋がっていない。読む私も眼が悪いが書いた生徒も当然眼が悪い。ものすごい時間をかけてカルテを解読することになりました。冗談のような現実の話です。ちなみに私はパソコンで書くことに決めています、プリンターだって持ち込んでしまいます。臨床と言っても2月は今までの治療を継続し正確に鍼を刺すことが中心となります。とても症状の診察や治療の組立はまだできません、まずは患者さんに慣れることからです。患者さんはもうベテランです。10年以上通っている方もいらっしゃいます。この時期新人生徒が出てく

ることなどよ〜くご存じです。暖かい患者さんの励ましによってみんな大きくなっていくのです。えっ、それって治らないからずっと通っているんだって？ とんでもありません調子が良いから通って来られるんですよ。これは本当です。

さて、最初の患者さんは鍼を刺すツボが14ヶ所、それが左右で28ヶ所もありました。初めの10ツボ位は感覚もあったのですが後は刺して抜いただけ、何をしたのか記憶がありません。本当に緊張しました。疲れました。それでも患者さんは「体が温まりました。」と喜んで下さいました。

2年生の臨床は2月で終わり、4月中旬から本当の鍼の臨床が始まります、盲学校の生活も残り1年、過ぎてみれば早いものです。国家試験も問題ですがその後どうするのか頭の痛い問題に取り組まなければなりません。

前回子供の頃から障害者と健常者の交流があったらいいと書きましたが、有る意味では進んでいるようです。現在盲学校の生徒数は昔に比べて大変少なくなっているということです。以前は1クラス30人もいたそうです、現在は1〜10人位です。その理由の第一は目の病気の多くが治せるようになったこと。そして第2は一般の学校でかなり受け入れるようになったからだそうです。と言うことで私の認識不足でした。

梅祭りも終わってもうすぐ本当の春です、新しい生活に入る方も、そうでない方も新鮮な出会いを求めて頑張りましょう、今回はこのあたりでさようなら。

## ●コンサートに参加して

l-r-o 鈴木 勝

みなさんお久しぶりです。l-r-oのベース、鈴木勝です。バンドを代表して年末チャリティーコンサートの感想を書かせていただきます。

振り返れば、ぼくが初めてこのコンサートのことを知ったのは一昨年の11月でした。内田さんや市川さんその他数名で飲んで席でのこと。内田さんの中にはすでに今回の構想があったようでした。でもその時はこんなに早く実現するとは思っていませんでしたし、

こんなに大きなコンサートになるとは想像もしていませんでした。準備の段階でたまに話し合いに参加すると、どんどん大がかりになっていくのを感じずにはられませんでした。会場のこと、ボランティアのこと、機材のこと、ポスター、広告、予算等々中心スタッフはとにかく大変だったと思います。そんな中で成功したこのコンサート。ぼくら1-r0にとっても非常に思い出深いコンサートになりました。結成して1年2カ月ほど、2回目のライブの場がこんなに大きなところで、そしてたくさんの人の前で、ぼくらは興奮し緊張していました。できは今一つでしたが、それ以上に得る物は大きかったように思います。大きなステージ、すばらしい音響環境、スタッフの対応、みんなうれしかったです。そしてなによりも同じバンド仲間、多くの人に出会えたことは今後1-r0が前進していく上で大切な物となったはずですが、最後になりますが、このコンサートのステージと一緒に上がったバンドのみなさん、すばらしい機材を用意してくださったパワーハウスのみなさん、ボランティア、スタッフのみなさんほんとうにどうもありがとうございました。そして今後とも、1-r0をよろしく願います。

## ●コンサートに参加して

Jelly-bean's 溝呂木 奏

僕は音楽が好きで学校の音楽部でバンドをつくり、ドラムを叩いています。「コンサートに参加してみないか？」との話をいただいた時は、すぐに「やりたいです」と答えました。他のバンドの人達は全員大人なので、高校生が入って迷惑をかけないかと心配でしたが、参加したら何か自分の中で変わるものがあるのではないかと思ったのです。僕は不登校で中学は行っていません。高校生になってからも、時々登校が辛くなる日があります。母は「広い意味であなたも障害をもっている」と言います。人とコミュニケーションをうまくとれない自分がバンドリーダーになり、まとめていかななくてはならない立場になって、それぞれの意見のくい違いに悩み、落ち込む僕に対して母は、「出来ないのならきちんと自分の言葉でスタッフの人に話さない。続けるのなら今以上に大変な思いをするから覚悟をなさい」と言い『がんばりなさい』とは一言も言いませんでした。僕は続けることを選び、やりとげたいと願いました。それか

らもいろいろなことで苦しみました。当日ステージに立った時は今の自分を全部表現したいと思いドラムを叩きました。まだ決して上手とはいえない演奏ですが“やることができた”と実感しました。コンサートに参加させていただいたことは、自分自身を認識するチャンスを与えられたのだと今、思っています。スタッフの皆さんと仲間に加えて下さった、I-ro、Fiss、Tightropeの皆さんに感謝します。ありがとうございました。

## ●最高の一日

宮村 聡（横須賀市）

1999年12月26日。その日は、僕達FIZZにとって、最高の一日だったと思う。それは、FIZZ結成以来、最初のステージだったからです。そもそも僕達FIZZがこの起死回生に出演できたのは、去年の6月にJ-RPSの内田さん市川さんと一緒に神奈川支部総会の後の飲み会で、「宮村くん、音楽とかやってないの？」という内田さんの問いに、僕が「バンド組んでます」というと「何やってんの？」と言うまたまた内田さんの問い。僕はしぶしぶ、「BUCK-TICKです」と答えると「えー。」と言う、悲鳴に近い声が・・・僕が、びっくりしてその方を見ると、そこにはにこにこしながら市川さんが「BUCK-TICKっていいよね。」と言ったかと思うと、内田さんが、「出演決定！」と言っていたのです（笑）それからと言うもの、目の病気のことはすっかり忘れて、コンサートのことをみんなで話し合ったり、自分たちのバンドのことを話し合ったり、いろいろ大変だったようなそれでいて、楽しかったような気がします。それからあっという間の半年、今まで話しかけていなかったことが、ついに現実のものとなってきた。そして、コンサート当日。当日の朝は、不安と、どんなコンサートになるのだろうというワクワク感から、まだ夜が明けないうちから目が覚めた。でも、眠いわけではなく、緊張もしていなかったのですが、いざ会場を目の前にすると、すごい緊張感。時間が経つにつれて、増す眠気。そんなことを知ってか知らずか、あっという間に出演時間になってしまい、いざ、ステージへ・・・

ステージに行ってから、自分でもわかるくらいのすごい緊張感。おかげで1曲1曲のペースが上がるわ、ミスが多かったわで、自分では、あまり納得のいく演奏ではなかった・・・が、メンバーの、「初めてにしては、上出来だ」の言葉に（そうだ、俺たちは初めてのステージだったな）・・・と思い、まあいっかと思いました。最後に、このコンサート「起死回生」が続く限り、出来るだけ出演したいと、最近思ってきたのは、僕だけでしょっか？・・・（笑）

## ●チャリティーコンサートに参画して

小湊久美子（横須賀市）

私は、小湊（らん丸）久美子と申します。JRPSには99年10月に入会したばかりの新米ですが、せんえつながら今回のチャリティーコンサートの記事を書く事になりました。チャリティーコンサートに参加して下さった皆様、本当にありがとうございました。皆さんのおかげで楽しい一時を共有できたことをうれしく思います。

ミニ集会に参加したその日から「スタッフだから」と言われ、内心「本気？」と思いつつ、音楽をこよなく愛している私としては、遠い昔にコンサートを袖から見てみたいという夢が実現出来るんだという淡い期待だけがふくらんでいました。しかし、現実は厳しくて、実際パンフレットの作成、スタッフ集め、当日のスケジュールetc・・・山ほどの困難にぶつかっていく中で、これまでのスタッフの大変さが良く解りました。

素人の身で何かを作ることがどれだけ大変だったろうと思います。実際参加して下さった各バンドのメンバーも当日が初顔合わせという事で、ど～なる事やらと思いましたが、そこはRockで〇〇がっているだけあって、皆さん和気あいあいとした感じでコンサートはスタート。私は、ある時はお茶出し、ある時は観客、又ある時はパシリをしながら会場を転々としている中で、誘導の方、受付嬢、楽屋を盛り上げてくれた方、照明の方、ラポールのスタッフの方、皆んなで作ってるなあ～と感じ、又、陰ながらBGM，“起死回生”の垂れ幕を寄贈して下さった方、印刷を担当して下さった方、ケーブルTVの方等など、どの人が欠けても、このような物は作れなかったらうな、と思いました。

コンサートも無事終了し、私の友人が目を潤ませながら「あなたは幸せね、あんなにいい人達とこんな事ができて！！」と言ってくれました。私もつい目頭を熱くしてしまいました。

アンケートを通して客席からの声を聞くと「慣れないところが新鮮」、「親切」、「楽しめた」等の感想が多く、スタッフ一同ホッとしています。ボリュームの点など考慮する所、当日の動きで反省すべき所など多々ありますが、Vol.1へのステップとさせて頂きたいと思います。Dance Party、演芸、第九コンサート等皆様からの企画も多数寄せられています。又このコンサートを通して一緒にスタッフとしてやっていきたい方（老若男女問いません）熱いLove Callをおまちしています。

## ●湯河原にて（合宿交流会）

横山国夫（座間市）

梅の香りに誘われて 伊豆の山里訪ね行く  
そぞろ歩きの山肌に 白梅紅梅乱れ咲き  
天を仰ぎて見る梅も 我等、地を見て香り知る  
ひときわ目立つ集まりに 手を差し伸べて道譲る  
行き交う人の花心 知りて宿への下り坂  
いで湯の宿のせせらぎに 梅一輪の離れ枝  
深き想いを胸に秘め 語らう人の姿あり  
水の流れは絶えずとも 岩に碎ける涙花  
湯けむり越しの峰峰も 真近に鳥の鳴く声も  
朝湯の肌に心地よく しばし浮世の離れ雲

—お願い—

使用済みのテレホンカードがありましたら、JRPS神奈川支部事務局のほうまで持ってきて下さいますようお願いいたします。

JRPS神奈川支部会報の点字版、テープ版を希望される方は神奈川支部事務局までご連絡下さい。

神奈川支部事務局：中村善暁

〒253 神奈川県茅ヶ崎市萩園1445-6

TEL. 04 \*\*\*\*\*

FAX. 04 \*\*\*\*\*

—◇編集後記◇—

薬害エイズ事件で製薬会社の旧ミドリ十字の歴代社長3人に実刑判決が下されました。会社の利益を優先し、国民の生命・健康を損なった責任を厳しく問いただしたことは国民の常識に沿うものです。この事件は製薬会社、厚生省、医学関係者の「産・官・医」の癒着がもたらした複合事件であると言われていています。（以上、日本経済新聞 2/25 社説より）我々の病気についても近い将来いい薬が出てくると思いますが、この悲劇を繰り返さないためにも、自分達でしっかりとその動向を見守っていく義務があるのではないかと感じました。なかなか難しいことではありますが、治療法解明のために我々も頑張らなければなりません。

編集部では皆さんの投稿をお待ちしています。どしどし送って下さい！

発行人：身体障害者団体定期刊行物協会  
東京都世田谷区砧6-26-21

編集：JRPS神奈川支部会報編集部  
阿部直之

〒213 神奈川県川崎市高津区

TEL・FAX 044-\*\*\*\*\*

E-mail arr\*\*\*\*\*

定価 200円